

No. 33 チェック介護保険

介護保険制度の3年毎の見直し時期を来年4月に迎えます。介護報酬と介護の種別、それに伴い65歳以上の高齢者が納める介護保険料も見直される事になっています。その保険料の全国と愛知県の検討状況が新聞報道されました。地域で大きな格差を抱える介護保険サービスと介護保険料。気になるところです。

平成15年4月に見直される

65歳以上の全国平均基準月額介護保険料
3,241円 現行の11%増

新聞報道によれば、厚生労働省は来年4月に見直される65歳以上の介護保険料の基準額の全国平均月額3,241円と発表しています。

これは、来年度から5年間のサービス利用見込みを基準に推計したもので、これまでの基準保険料月額2,911円の11%増しでした。

これは高齢化がすすみ、介護が必要なお年寄りが増加、サービスの利用が増えるのが最大の原因としています。

愛知県の見直し検討状況は

平均基準月額 2,894円 現行の5.7%増

一方、愛知県では、市町村など県内85保険者の検討状況をまとめたが、65歳以上の介護保険料(2003年~2005年度)は2,894円、現行の2,737円の5.7%増となり、全国平均よりは347円低い。値上がり理由を県では、介護保険利用の浸透でサービス利用が増えたり、75歳以上の後期高齢者の増、認定率上昇傾向の為と判断しています。全国平均より低いのは、愛知県は全国の中でも高齢化があまり進んでいないからとみえています。

我が街一宮市ではどんな検討状況?

「検討中」とのことでした。

現行の平均基準月額は2,650円ですが、今後どうなるのか見守りたいと思います。

Q.なぜ、私達は65歳以上の介護保険料にこだわるのでしょうか

A.市町村が介護保険の為に用意する総介護サービス量によって保険料が決まるからです。

全国の各市長村は、今後事業計画の見直しなど調査を進め、最終的な確定は、来年1月以降の見通しとのことでした。



二日目午前のリズムはたのしい
昨年と同様に、木曾川高校ブラズバンド部講師の鳥居先生と名古屋芸術大学のクラリネット奏者の学生さん四人が参加くださり、すべて生演奏という豪華版で、リズム遊びに挑戦しました。

一日目の高齢者のための太極拳
講師田中薫子先生の静寂な動きの美しさに驚嘆。太極拳をやっていると性格がまるくなり、顔付きがよくなり、若くなること。皆さん、汗をかき真剣に取り組みしていました。

一宮市から委託を受けて行いました介護予防講座自立支援教室はこの程三日間の全日程を終了。楽しい雰囲気の中、自立に向けての講座が行われました。

《講座報告》一宮市委託講座及びまごころ公開講座 自立支援教室・受講生は楽しくいきいきと

公開講座リズムでリハビリと高齢者自立講演会にいはいの参加者

三日目は、美浜にあります杉本美術館での絵画鑑賞と杉本健吉画伯との懇談。一人ではなかなか行けない美術館。杉本芸術にふれ、杉本さんのなんともユニークな飄

二日目の午後、「医師の立場から高齢者の自立について」と題し、山下病院院長の高勝義先生にお話しをいただきました。最終和やかな雰囲気の中、豪快で率直なお話しをいただきました。常に一番困っている人をどうするかを考えなくてはならない。高齢者の自立は、やはり自分自身、自ら努力することが大事、と

二日目の午後、「医師の立場から高齢者の自立について」と題し、山下病院院長の高勝義先生にお話しをいただきました。最終和やかな雰囲気の中、豪快で率直なお話しをいただきました。常に一番困っている人をどうするかを考えなくてはならない。高齢者の自立は、やはり自分自身、自ら努力することが大事、と

愛知県内福祉系NPO法人

「介護たすけあいフォーラムin愛知」が開催

主催：市民福祉団体全国協議会 協力：全労済

～介護保険訪問介護事業所のサービス提供責任者の役割と課題について～

去る、九月二十二日、名古屋NPOボランティアセンターで、福祉系NPO団体対象に「たすけあいフォーラムin愛知」が開催されました。介護保険の訪問介護で最も重要な役割であるサービス提供責任者の抱える問題と課題についてのパネルディスカッションと「公的介護保険制度とNPOの諸問題について」と題した佐藤秀次さんによるお話しがありました。

◆研修が必要な役割のサービス提供責任者

サービス提供責任者は、介護保険のホームヘルプサービスを利用する利用者さんとケアプランを作成するケアマネジャーさんとの間に位置し、的確にケア内容を判断、ケア計画をたて、利用申し込みの調整、ヘルパーへのケア提示と指導、管理を行います。その役割は訪問介護の要であり、その内容は広く様々で重責であります。しかし、ケアマネジャー研修はあっても、サービス提供責任者の研修は、

なかなかその機会が少なく、その質が問われ、悩みながらサービス提供責任者としての役割を担っているのが実情です。今回の研修では、その役割と抱える問題と課題について県内4事業所から発表があり討論されました。

◆ケアマネジャーと対等な連携

問題としては、ケアマネジャーとの対等な連携ができていないかどうか/利用者さんの度々変化する要望にどう応えていくのか/ケアについてその内容把握とワーカールへの的確な指導が出来ているかどうか/など。また、問題を解決するために取り組んでいる課題として、質の高いケアの確保/ワーカールが安心してケアが出来る体制作り/などが出されました。

◆業務は文書化で実践へ

NPOは甘えていないのか講師のメイアイヘルプユーの新津ふみ子さんは、組織として取り組むものはすべて文書化したうえで実践していく

ことが必要だと、書類に弱いNPOに的確なアドバイスが、ありました。評価の問題では、NPO法人はもともといいたいことをして、思っているところがあり、それが危険でもありと指摘がありました。また、これからの介護保険事業者は、介護の質の向上に向けて、また利用者さんが良質なサービスの選択が出来よう第三者評価を受けていく姿勢が大切ではないかと、第三者評価の必要性を話されました。

また、午後の「NPO団体と介護保険」についてのお話しは、介護保険三年目、NPOの活動の原点が見えなくなっているのか、その活動の在り方を問われました。今回、このような具体的な内容の勉強研修会に参加することで、抱えていた問題が明確になり、研修が近づくにつれて、サービス提供責任者でも忙しさを来てもよい機会をいただきました。(当会四人参加)

九十七歳になられる杉本さんは、今なお現役で絵を描いておられる為でしょうか、サインされる手は力強さがみなぎっていました。

「二〇〇五年百歳で自身身の遺作展を開催、それを自身でみてみたい。そして百八歳まで生きる」と画文集に書いておられますので、なぜ百八歳なのかお尋ねしたら、「人間には一〇八の煩惱があるでしょう、だからだよ」「死ぬことは何も怖くないよ。寝て、ただ目が覚めないだけだからね。でも、悪いことした人は相手の顔を思い出してすーとはいかんわ。いつもみんな死んでるのだけれども、目を開くから生きてるだけだよ」「あ、なるほど」

こんなやりとりを一時間くらい、何だかとても気持ちよく、感動もいたって、本当の意味の自立支援教室になりました。

